

平成29年度 第2回三次市地域公共交通会議 議事要旨

1. 開催概要

日 時：平成29年8月29日（火）14時00分～15時30分

場 所：三次市交通観光センター 2階 多目的スペース

出席者：

〔会長〕 三次市 副市長 瀬崎 智之

〔委員〕

三次市地域振興部 瀧奥 恵

有限会社君田交通 松尾 宏

東河内町 近藤 幸恵

三和町 福場 和子

三次市社会福祉協議 大田 千代

三次市建設部 坂本 高宏

米子工業高等専門学校 加藤 博和

西日本旅客鉄道株式会社 佐々木 敏範 (オブザーバー)

備北交通株式会社 實兼 利光

三次みどりタクシー株式会社 石田 光雄

布野町 中村 義和

三次商工会議所 竹本 勇夫

中国運輸局広島運輸支局 重長 誠 (代理)

三次警察署 山本忠士

2. 会議次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) 三次市地域公共交通会議委員の交代について

(2) 三次市あいのりタクシーの試験運用について

4 協議事項

(1) 平成30～32年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について

(2) 中国バス上下～太郎丸線の路線廃止について

(3) 安芸高田市運営有償運送の三次市への乗り入れ継続について

(4) 邑南町運営有償運送の三次市への乗り入れ開始について

5 三次市街地循環バス「くるるん」の体験乗車及び三次駅前広場等の見学について

6 その他

7 閉会

【資料】

- ・平成29年度第2回三次市地域公共交通会議資料（報告事項1～2，協議事項1～4）
- ・平成30～32年度地域内フィーダー系統確保維持計画
- ・地域内フィーダー系補助の説明資料（1枚）

- ・江の川調査隊3（パンフレット）
- ・三江線フォトロゲイニング（チラシ）
- ・JR三江線代替交通の運行計画案

3. 議 事

1. 開 会

2. 会長あいさつ

（瀬崎会長）

本日は大変暑い中、くるるんの乗車、三次駅前の踏査を行っていただき感謝申し上げます。

駅前も含め、安心して住み続けられる市にしていくという中で、公共交通の役割は重い。皆様のご意見をいただきながら、少しずつ改善を重ねていきたい。

三江線に関しては、代替交通のバスルートについてある程度案が示されており、地元にも話を聞いているという状況である。

また、駅のバリアフリー化に向けたプラットホームへのエレベーター設置について。国土交通省の基準では年間乗降者数3千人としているが、三次駅は千人に満たない。これを何とか特例で認めてもらい、設計を進めている。JRの関連では、3月から休日の快速の増便を行っている。

市民タクシーに関して。従来の手続きを簡便にすべく、チケットを使用した仕組みの試行を開始しており、これが上手くいけば導入していきたい。また地域の会議も続々と立ち上げてもらっている状況である。

本日も忌憚のない活発な議論をお願いしたい。

○連絡事項

<事務局より、会議の欠席者・代理出席者を報告し、次の事項を連絡>

- ・本会議は原則公開、傍聴席をもうけていること。
- ・会議資料及び質疑応答などの会議録は、市のホームページ上で公開すること。

3. 報告事項

<事務局より、報告事項(1)「三次市地域公共交通会議委員の交代について」を説明>

<事務局より、報告事項(2)「三次市あいのりタクシーの試験運用について」を説明>

（加藤委員）

あいのりタクシーについて。8月1日から試験運用開始ということであるが、利用実績はどうか。また、1人では利用できないということで、制度上は相乗りであるが、なかなか2人揃うのが難しい場合もあるかと思う。そうなると利用出来ないという方もいるのではないか。その辺りの運用も厳格

にされるのか。

(事務局)

8月1日から開始しているが、8月末が締めであり、運用の実績は9月上旬になって事業者から請求がくるため、今は確認できていない。ただし今のところ、利用者から使い難いなどの声はあがっていない。

7月に全ての地区を回り、運用の説明と利用のお願いをしたが、その際に1人の場合はどうなるのか、という意見が出た。基本的には公共交通の考え方で運用しており、複数で利用して欲しいとお願いした。2人で行く予定が急遽1人になった場合はどうなるのか、という意見もあった。この場合には柔軟性を持って1人でも利用できるが、原則は2人以上で、と説明している。

10月の聞き取りの時には改めてこうした意見も出ると予測している。それを踏まえて事務局でも考え方を整理しながら進めていきたい。

(加藤委員)

対象は距離要件のみで、年齢や免許保有等関係ないのか。

(事務局)

条件としては65歳以上で免許を持っていない方、もしくは免許があっても車・バイクを所有していない方が対象となる。

(石田委員)

前回の市民タクシーよりは便利になっていると思う。8月から実施しているということであるが、うちはまだ利用はゼロである。どのくらい配布しているのか。

(事務局)

現在は23名の方に配布している。聞き取りする中で、その時まで使っていたタクシー会社を引き続き利用する傾向がみられた。

(会長)

補足として。今までも栗屋等の地区で組合を作り、利用した半額は市で補助するという制度を運用していた。それと比較すると、精算などの手間が楽なのではないかと思ひ、設計したところであるので様子をみていきたい。おそらく1人でも利用可能とすると爆発的に利用者が増えていくであろう。普通の公共交通ということで、複数以上の利用の制度設計をした。

家から1km以内にバス停が無い方に使っていただくことで、交通空白地帯を解消していきたい。

4. 協議事項

<事務局より、協議事項(1)「平成30～32年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について」を説明>

(加藤委員)

維持計画に関しての異論はない。P3 の 3, 目標の達成について。ニコニコ便は作木町内が基本となるので地域内の検討会とエリアは一致するが、他の赤名や高野は庄原市や飯南町等地域を越えており、検討会と一致しないように思う。他市町とも連携し、利用促進、路線の再編等も検討する必要があるのではないかと。

また P5 の市街地循環バス活性化検討会議はくるるん導入前に検討したものだが、導入後はここ数年何も無い。関係者を集めて、地域内生活交通検討会に納まらないような検討を行ってはどうか。

フィーダーに関して。実質的にはフィーダーだけで完結している利用が多いものの、乗り継ぎを期待するものでもある。時刻表が掲載されているが、乗り継ぎの案内も加えたら良いのではないかと。

(事務局)

計画では、市内で出来ること、という事でこのような目標を設定している。ただしご意見いただいたように飯南町、庄原市に乗り入れている路線は、関係市町と連携して進めていきたいと考えている。

乗り継ぎ時刻表は、バス会社と協力しながら検討していきたい。

(山本委員)

P3 の 3 について。達成に向けては、利用者よりもむしろ非利用者の意見の方を掘り起こすべきではないか。利用する方は引き続き利用される。非利用者の意見を参考にして、それに対する改善というのが重要なのではないかと。

(事務局)

地域内生活交通検討会ではバスの利用者に限らず、色々な方に集まっていたいただいている。その中で、利用しない方を含めて、様々な意見をいただきたいと考えている。

(会長)

それでは、この計画案は、この内容で提出するという事にさせていただく。

(事務局)

今後、運輸支局と調整する中で軽微な修正などが生じる場合は、事務局で修正させていただくので、了承をお願いします。

<事務局より、協議事項(2)「中国バス上下～太郎丸線の路線廃止について」を説明>

(会長)

残念であるが利用者がいないということがある。経常収支率 20%に満たないものは廃止せざるを得ないということで市の計画でもまとめており、今回、このような中国バスからの申し入れがあった。

本会議として承認する。

<事務局より，協議事項(3)「安芸高田市運営有償運送の三次市への乗り入れ継続について」を説明>
<事務局より，協議事項(4)「邑南町運営有償運送の三次市への乗り入れ開始について」を説明>

(会長)

備北交通さん，何か意見はないか。

(實兼委員)

必要なことだと理解している。

(会長)

会議としては協議が整った，ということで承認させていただく。

5. 三次市街地循環バス「くるるん」の体験乗車及び三次駅前広場等の見学について

(会長)

次に「5 三次市街地循環バス「くるるん」の体験乗車及び三次駅前広場等の見学について」に関して。出来る範囲での改善について意見交換をさせていただければと思う。

(福場委員)

送迎車の場所がバス停なら良いのに，という意見もある。ただし，バスの回転範囲が広いので無理なのはわかる。今回実際に歩いて，自分ではそうでもないが，身体が不自由な人だと大変ということなので，感じ方が随分違うことがわかった。

また，くるるんバスに乗ると，車では10分の所を30分かかると言われたことがある。利用者によって意見の差がある。

きりりで大きなイベントがあるときはシャトルバスが欲しい，という意見も聞いた。駅に寄ってぐると30分まわってくるのは大変であるとのこと。きりりは駐車場が狭いということもある。ただし，多様な意見があって何を集約するかというのは難しい。

(中村委員)

バスのセンター部分について。あそこが常に一杯になるということは無いであろうし，バススペースが広く，メインである駅前の駐車・送迎用のスペースがあまりに狭い。入るとどうしてもバススペースの方に入りそうになってしまう。また，コインパーキングに車を止めて電車に乗る場合，距離がある。もう少し，どうにかならなかったかと考える。

(会長)

今はバスの待機車両が少ないが，朝だと大分様子が違うかな，とは思う。

(近藤委員)

駐車場は1回使って理解したが、出るときにチケットを使う、ということもわからず戸惑った。ただ、田舎でもこういった新しいことが取り入れられて良いかと思った。

(加藤委員)

1番乗り場に三次中央病院経由を集約されているということを今日初めて知った。バス停が通路に対して平行になっており、駅側から見えにくいので、通路のところに「中央病院経由」等垂直に、視界にすぐ入るようなところに看板が出ていればわかりやすいのではないか。本日の見学会で、複数の方がおっしゃっていた。

(坂本委員)

一応道路という扱いであるので、建築限界を外してもらえば設置することはできる。また、駅前すぐのところにバスが来て欲しいという意見について。バスがすんなり入るには難しいということで、エリアが2つに分かれている。それ以前は交差点が2つあった。今後は、バスの回転場が充分に利用できるように、JRの接続とそこから発生する公共交通のバス路線の利用が増えていけば良い、という思いである。ご理解をいただきたい。

(会長)

バスのロケーションシステムを今日拝見したが、あれは1,2,3番乗り場の一番新しいバスの表示なのか。次に来る便がどうなっているか、という情報は、1番新しいバスが出発しないと出て来ないのか。

(實兼委員)

今待合室に設置しているものは3つ全て表示しようとしたレイアウトである。それぞれ、1番ホームなら1番ホームだけで設置すれば次の便、次の便というのを表示するのは可能である。今は1台しか設置しておらず、それで3つの方向を賄おうとしているのでそういったレイアウトになっている。

(会長)

例えば、もしも今後中央病院に置くとしたら、最新に来るものから順々に表示させることは可能ということか。

(實兼委員)

可能である。

(竹本委員)

1番乗り場、2番乗り場について。今日のような暑い日はJRの駅舎や観光センターで待つということになるが、1番乗り場と2番乗り場が上手く合体できれば、1番側を寄せて駅舎の中で待てる。さらにモニターをJRの待合室に置いてバスの情報をわかるようにする、などにすれば中央病院に行かれる方にも便利になるのではないか。

(佐々木委員)

待合室は掲示物等色々なものがあり、設置が不可能である。鉄道を利用してバスに接続するお客様もよく聞いてこられるが、駅を降りてすぐの所にしっかりとした路線のサインが無いので、初めて利用される方には難しい。モニターやしっかりとしたマップで電光掲示のようなものがあれば、ご利用は増えるかと思う。今は、あまり地理感が無い方には利用が難しい。

(会長)

すぐにはできないが、待合については研究していくべきと思う。

(大田委員)

今日は西駐車場を利用して来たが、13:30ですでに一杯で、最後の1枠を私が利用した。今回は時間があって良かったが、もし高速バス等を利用する場合等、駐車場は現状として足りているのか。これから先、この辺りに駐車場が増える予定はあるのか。

(会長)

個人的な見解であるが、あまりこちら側がいっぱいになっているということはそう多くは無いように思う。あとは備北交通の駐車場がセンターの所にあるが、あそこはすぐ満車になるのか。

(實兼委員)

最近はずぐに満車になるということはあまりない。

(会長)

今の所、市役所として駐車場を作る、という計画は特に無いようである。

(山本委員)

イベント等で駐車場が足りない、または新たに創設ができないということであればCCプラザ・サングリーンにパーク&ライドでご協力いただくのも一つの手かと思う。

(会長)

今日歩いたことで共通認識ができたかと思うので、今後何かあればそこで議論させてもらえればと思う。

6. その他

<事務局より、「6. その他」を説明>

(加藤委員)

三江線について。代替バスは三次駅までということになるが、中央病院等まで延長することはないということで良いのか。また、運賃設定は鉄道並みになるのか。特に高校生などの運賃については地

元からも要望があるかと思う。それから、パスピーやICカードの車載はあるのか。

(事務局)

代替バスということで基本的には三次駅までとなっている。ただし、調整中の路線の中には既に中央病院行きや工業団地行きのものもあり、それについては継続した路線になる。375ルートや県道112号ルートの基本的な考え方は三次駅までである。運賃については色々な要望があるが、三次市だけでなく沿線6市町で鉄道に比べて大幅に値段が高くつくということは課題が挙げられているということで、継続課題である。また375ルート、54号ルートいずれもパスピーの導入を考えている。

(加藤委員)

車両は統一のカラーにするのか。また、新規導入するのか、それとも既存事業者の車両を利用するのか。それから、3つの区間にわけているが、連続して直通のものを追々検討するということがあったがどうなっているのか。

(事務局)

バスについては運行事業者の希望を聞きながらまとめるが、色・デザインについては特に統一するという話しはない。また、今のところ直通はない。これまでのアンケート調査等で直通の利用は少なく、この3ブロックで考えていた。それぞれのブロックの時刻表がまだ出ていないので、どういうふうに乗継いで行けるかというのはまだ詰めが出来ていない。

(加藤委員)

観光利用等であれば跨いで行く、ということもあろうかと思ったが、基本的には生活利用の代替で検討されていると理解する。

(事務局)

生活交通であるが、一方では観光利用という側面もあるので、そういった乗継ぎの配慮も必要であらうかと思う。

(加藤委員)

空港連絡バスについて。今年度に入ってから利用状況を教えていただきたい。

(事務局)

4月末で1.9であった。今は7月末現在で2.0という推移である。昨年度実績より若干少ないという現状である。

(加藤委員)

空港連絡の利用時刻が延長になるということであるが、それに対する三次市の空港連絡バスの対応はないのか。

(事務局)

今の段階は、対応の予定はない。今の最終の時間のままである。

1つ情報提供をさせていただく。備北交通に今大きなポスターを作成していただいている。各備北交通の車両、三次市の市役所に掲示を検討している。その他の広報についても積極的に進めていきたいと考えている。

(加藤委員)

空港連絡バスの利用者数が上向いていないということなので、今使っていない人にもアプローチする必要があるのかと思う。ご検討をお願いしたい。

(事務局)

今、春秋航空の機内誌を活用してバスをPRしている。利用していない方への意見の取り方としては、ビジネスでどういった使い方をされているか、三次市内何十社かの利用状況を把握したいと考えている。また、市内の旅行会社等へ聞き取りをして、どういった方がどの便に多く乗られているのか、そういったものも研究していきたい。

(加藤委員)

前回、福塩線・芸備線の利用促進を検討する、ということであったがその後はどうなったのか。

(事務局)

今日の会議でご提案できればと思っていたが、協議に若干時間がかかっているなのでこの度はご提案できなかった。今年度中の実施ということもあるので、案について次回の会議で報告できるようにしていく。

7. 閉 会

以 上